

当 局 説 明

【第7回北陸地域連携プラットフォーム 平成27年6月9日(火)】

項 目：北陸新幹線金沢・富山開業の北陸経済への波及効果と課題について
～北陸地域経済の新たな幕開け～

説明者：財務省北陸財務局 総務管理官 岸山 敏浩

それでは、まず、1つ目のこの波及効果と課題につきまして、副題として「北陸地域経済の新たな幕開け」という題をつけてございます。

まず、資料1ページを御覧いただきたいと思えます。少し前でございますが、3月14日の開業後よく言われたのは、金沢は今、日本の国内では最も熱い街だと言われ、或いは富山の方からは、金沢の一人勝ちだといったことも言われていたような記憶がございます。今日説明させていただくのは、結構色々な地域に北陸新幹線の開業効果が広がり始めているのではないのか、そして、観光、宿泊、サービス業以外の産業にも、効果が波及しつつあるのではないのかといったことが、柱になろうかと思えます。

そこで、まず、資料1ページ目の観光・消費への波及でございます。これは皆様方御案内のとおりですが、兼六園の入込客数は開業以降順調に増加しておりまして、3月の単月でみると約1.6倍、20万人が来訪。開業後初となる大型連休中の5月3日には、この金沢城公園で大型連休中としては過去最多の入込客となっております。また、この週末の百万石まつりの入込みの状況でございますが、兼六園は今年の1.6倍、金沢城公園は1.4倍と言われております。こういった形で、首都圏中心にかなり入込客が多い。一方で、関西圏、或いは中京圏からも来られている方々が多い。それに加えて、外国人の方々の入込みが目立つといったことも言われてございます。

大型小売店でございますが、開業後最初の週末は中々皆さん行かなかったということですが、二度目の週末においてはかなり賑わっているといった状況であったとの声も聞かれております。その後もほぼ順調にきています。特に新幹線の最寄りの駅近辺等のコンビニエンスストアでは、かなりの人が入っているということで、コンビニの営業状況も堅調、或いは順調といったことが続いていると聞いております。

そのほか、能登地域ですとか加賀地域、富山県、福井県でも波及効果がみられておりますほか、観光・消費以外にも、機械関連の製造業ですとか、卸・小売業など関連産業への波及もみられております。

右のほうにいきまして、本社機能の一部移転、企業進出ということでは、皆様方御承知のとおりでございますけれども、北陸のものづくりの産業集積、災害リスクの低さ、それと、労働力や土地、水などの豊富な経営資源と、このような3点セットの形で、元々ある、経営資源に新幹線の開業効果といったものが加わりまして、例えば、小松製作所、或いは黒部のYKK、或いは加賀東芝エレクトロニクスなど、企業の本社機能ですとか研究開発機能の移転、或いは他地域からの企業進出が増えております。

また、三井アウトレットパークなど、新幹線開業による観光・消費拡大効果も見据えた大型商業施設の新設も進んでございます。

右側の下の方になります。地価動向であります。この地価公示は今年1月1日時点でございますが、金沢駅周辺で地価が上昇しております。金沢駅の金沢港口、昔の西口の方ですが、商業地の上昇率が17.1%と、全国トップの上昇率となっております。

さらに、一番右の下の課題・懸念では、北陸管内の有効求人倍率は全国を上回る高水準で推移しておりますけれども、観光・消費関連を中心に人手不足感の強まりを懸念する声が聞かれており、業界団体からは、人手不足が企業誘致の足かせになっているとの声も聞かれております。赤字で書いておりますが、労働生産性の向上や女性の登用・活用、新卒者の人材確保、管外・県外からの移住・定住促進が課題と考えております。後程、2つ目の説明の資料で、この赤字で書かせていただいたところをもう少し詳しく説明させていただきたいと考えています。

この資料1ページの取りまとめという形で、黄色い部分ですが、開業以降、管内への観光客が増加と。能登地域や金沢以西、加賀地域等、こちらの方への地域的波及、ものづくりなど観光業以外の関連産業への波及もみられ始めているなど、今後の持続的な地域経済の好循環が期待されております。また、本社機能移転ですとか、企業進出、各自治体での移住・定住など地方創生への取組みが加速化することによりまして、交流人口が増加し地域経済活性化に繋がる、ここがポイントですが、地方創生のモデルケース、これは石破大臣もまさにこのようなことを仰っております。この北陸地域が地方創生のモデルケースとなるように我々も期待しており、サポートさせていただければと考えております。

この資料1ページは取りまとめとして、こういうことを我々も考えております。資料2ページ以降は、今申し上げたものを少し敷衍して説明するといったことになってございます。

そこで、資料2ページを御覧いただきたいと思っております。

ここでは観光・消費への波及について生の声を載せております。

一番下にありますが、金沢市周辺でございます。4月、5月の宿泊客は前年比20%増加、学会の需要、法人需要が増加しているとの声ですとか、上の真ん中には能登地域でございますが、2つ目の丸、朝の連続ドラマの「まれ」のロケ地となっております。輪島の朝市では、県内外から観光客が増加してございます。4月の定期観光バスの利用者は前年比約3倍となるなど、開業効果がみられるとの声が聞かれております。能登地域は、北陸新幹線の開業もそうですが、それに先立ちまして2月には能越自動車道の七尾氷見道路が全線開通といったことで、相乗効果によって非常に観光地に賑わいが創出されているといった声も聞かれております。特にレンタカーが非常に多く利用されているようでございますし、バスの定期便で「わくライナー」、こういったものも新高岡から七尾の方に出ているといったことも聞いております。

また、右側の富山県におきましては、高岡市の瑞龍寺のグラフを載せておりますが、4月の入込客数、これは前年比67.5%、大幅に増加、4つ目の丸ですが、瑞龍寺の入

込客数は個人客が大幅に増加、3月に続いて2か月連続で前年比2桁増となっているとの声が聞かれております。

また、左の真ん中の枠、福井県の永平寺の入込客数のグラフを御覧いただきたいと思います。3月、4月は約4万人が訪れ、4月は前年比25.5%の増加、足下でも5月の大型連休中は過去最多の入込みとなるなど、福井におきましても、新幹線開業の効果を実感しているといった声を聞いております。

福井県と書いてあったすぐ下、舞鶴若狭自動車道の全線開通が今年の7月20日でございます、少し古いですが、半年間の嶺南地域の観光消費額が6億円強に上ったということで、多分この5月の連休中を含めて、間もなく関係機関から公表されるのかなと思いますけれども、これも相乗効果が発現しているものと思われま

す。資料2ページの真ん中の右には、参考という形で青で囲んでおりますけれども、経済効果ということで、日本政策投資銀行様や、地元の北陸経済研究所様の、色々な経済効果をはじいたものがありますので、参考として付けさせていただきます。金額的にはこのような試算になるのですが、我々では、どのぐらい経済効果があったのか、中々検証ができないので、折角でございますので、フォローも是非よろしくお願

いできればと思っております。このように北陸3県で観光・消費への波及効果が顕著にみられているということでござ

いますので、今後も大いに期待されるというところでござ

います。資料3ページを御覧いただきたいと思

います。受け地としての魅力向上として、旅館ですとか、ホテルなど宿泊施設の状況でございます。改装ですとか新設、或いは従業員の増強など、増加が見込まれる首都圏等からの宿泊客に対する温泉旅館ですとか、シティホテルといったものが増加してござ

います。まず、温泉旅館では、県、或いは自治体の補助金を活用した客室の改装ですとか、食事処を新設する旅館が相次いでおります。点線枠内に記載しておりますが、和倉温泉の加賀屋さんでは食事場所を新設、部屋以外の場所で食事をしたいという要望に対応しまして、投資額1億円。また、4億円を投じまして高級宿泊棟の客室改装に着手しております。ベッドの導入や、室内のテーブルや椅子を新調しているとのこと

新設等につきましても相次いでいる状況でございます。

資料4ページを御覧いただきたいと思えます。

関連産業への波及につきまして生の声を載せております。

まず、飲食料品製造におきましては、弁当販売が好調であります。或いは全国で北陸フェア等の催事が増えていることから受注が増加、3月の売上げは前年比大幅増加を見込んでいますといった声が聞かれ、機械関連等におきましては、新幹線のメンテナンス関連機器の受注が増加しフル生産が続いており、今後も需要増加が見込まれております。また、4つ目の回転すし店等からは割り箸の受注が大幅に増加しております。特に石川県内からの受注は前年比30%程度増加しているといった声が聞かれております。また、サービス関連では、レンタカーで5月の大型連休は観光客が増加し、特に駅前の店舗では利用者数が前年比3倍ですとか、次の土産物関連グッズの製造販売では、この連休中は過去最高の売上げを記録しております。観光客に加えまして帰省客も多く、地元の海産物等の売行きが良かったとの声も聞かれております。

右側を御覧いただきますと、こうした中で人手、或いは客室の不足を懸念する声も聞かれておりまして、ホテルや温泉地ではコンベンションが集中するこの秋、既にほぼ満室だということで、常連客の受け入れが困難といった声も聞かれております。

右側の一番上に、石川県と富山県、それぞれ幾つかのコンベンション等を記しております。こちらに載せていませんが、石川県だけみましても1万人を超えるようなものがかなりの数あります。実はこのメンバーでおられます宮川様がヘッドを務めていると聞いております全国商工会議所女性会連合会石川全国大会、これが今年の10月の開催予定ですが、参加予定者3,500人という非常に多い数字でございます。載せられなかったことは非常に申し訳なく思っております。

金沢、富山もそうですが、色々な全国大会が予定されております。ちなみに、金沢市内のホテルの収容人員は、平成25年の時点ではありますが、約1万2,000人ということでございます。ですから、1万人を超えるような全国大会があれば、おのずと他のところに泊まっていたかと。加賀、或いは能登、或いは富山といったところで、いろんな関連のところ連携をとりながらやっていると聞いております。先程申し上げたとおり、幾つかホテル等の新設がありますが、これから増えていくのかなと期待されているところでございます。

また、下の右側にグラフがございますけれども、金沢の宿泊業、飲食サービス業等の新規求人が大幅に前年を上回っておりまして、企業からは人手不足を懸念する声が聞かれております。

北陸新幹線の開業ですとか、外国人の観光客の増加を契機に、また、二次交通の利便性を高めるといったことを含めて、地域観光資源の有効活用と地域連携による新たな観光需要の創出を図ることによって、交流人口の拡大、宿泊、飲食サービス業を中心とした観光消費額を増加させるといった取組みが大事なのかなと。

ちなみに、石川県の1人当たりの観光消費額、直近の25年度の数字ですが、約1万2,000円となっております。この1人当たりの金額をできるだけ増やしていただくように、例えば、産業としての観光業といったものが確立されることによって、より地

域経済の活性化に繋がるのかなと思っております。

資料5ページを御覧いただきますと、こちらは県外資本の主な本社機能の移転ですとか企業進出等ということで、先程申し上げたとおりでございますので、割愛させていただきます。

また、このような良い面ばかりではなくて、色々と開業前から御心配というか、懸念されていたことの一つとして、開業によりまして首都圏に人、或いはお金が吸い取られるといったストロー現象が懸念されております。ところが、今のところはそうした懸念が出ているかという、明確にはまだみられていない状況なのかなと。このページの右下にあります、例えば大和ハウス工業様が金沢支店を支社に昇格するとか、そういった拠点の強化が今のところは目立っているところでございます。

続きまして、資料6ページを御覧いただきたいと思っております。

色々な企業が進出、或いは本社機能も含めてということが資料5ページでしたが、6ページは、一方で主な地元企業の新たな事業展開について、各県毎に主なものでございます。

一つは、石川県のところを御覧いただきますと、高田産業様、建設業、これが開業後の需要増加を見据えまして、今年3月、金沢彩の庭ホテル、64室でございますが、異業種参入といったことを含めまして、様々な企業さんが新たな事業展開をされているということを取りまとめさせていただいております。

また、資料7ページを御覧いただきますと、需要増加に対応するような形で、工場等の増産投資に加え、北陸新幹線の開業により、新たな市場開拓への取組みですとか農林水産業の展開、或いは企業活動を地域の観光資源として活かす観光産業の取組みといったものが進んでございます。

このページの一番下に、コンパクトシティに向けた取組みを活かす富山の産業観光を入れさせていただいております。商工会議所八つの会頭様で組織します、富山県の広域産業観光推進委員会によりまして、産業観光の受け入れ候補企業は100社に達しまして、富山商工会議所では、公共交通機関沿線の産業観光施設を中心に紹介する産業観光のガイドブック等を発行しているといった状況も紹介させていただいております。

資料8ページを御覧いただきますと、これも先程、地価公示で金沢の駅周辺がかなり上がっているといったことを説明させていただきましたが、上の左側の表を御覧いただきますと、金沢市の商業地、これは7年振りのプラス、住宅地が20年振りに下落から横ばい、富山市の商業地が23年振り、住宅地は22年振りのプラスといったことで、この新幹線の沿線につきましては顕著な地価上昇がみられております。一方で、残念ながら福井では、まだこうした波及がみられていないということでございます。

そのほか、金沢、富山、福井、それぞれの県庁所在地でこんな動きが、或いは展開がありますということをそれぞれまとめさせていただいております。福井におきましても、幾つかここに掲げさせていただいております。

続いて、最後、資料9ページでございます。今御説明させていただいたことの課題として取りまとめたものでございます。

交流人口につきましては、真ん中、上にございますけれども、北陸3県の転入・転出を地域別にみますと、先程、冒頭に局長からお話ございましたが、東京圏への転出が多いのが特徴でございます。右側の北陸3県の人口動態の推移のグラフをみますと、3県ともに減少傾向にあるといったことがわかつてお思います。各県におきましては、まち・ひと・しごとの対策としまして、生活コストの低さ等を魅力に、誘客から移住・定住、こういった促進策に向けた次なるステップとして、管外からの移住・定住促進の取組みを強化していると伺っております。

また、労働力の維持・確保につきましては、北陸管内の有効求人倍率、これは全国を上回る高水準で推移し、雇用情勢は確実に改善しております。一方で、企業側からは、新幹線の開業に加えまして大型商業施設の開業も控えていることから、人手不足感がさらに強まるとの声が聞かれております。北陸の労働生産性は、製造業、サービス業において低位であるということですが、後程、御説明させていただきます。また、女性の有業率が高く、女性が働きやすい地域であるものの、実は女性の管理職比率が非常に低くなっております。そうしたことから、業務工程の見直しですとか、改善などによりまして、労働生産性の向上を図るとともに、女性の登用・活用、高校・大学新卒者の人材確保に加え、管外からの移住・定住促進に取り組むなど、労働力の維持・確保が課題ということでございます。

北陸管内には、グローバルニッチトップ企業ですとか、世界シェアトップクラスの企業が多数あります。観光のほか、北陸のものづくり力の集積を活かしまして、北陸3県が共同申請し政府が認可しております地域再生計画、このページの一番下にございますが、炭素繊維ですとか医療、ライフサイエンス、こういった新たな産業・企業の創業・成長支援、それと本社機能移転への取組みなど、地方創生の取組みを加速化することで、サービス産業ですとか6次化産業への波及を通じまして、産業基盤・地域基盤がより強固なものとなり、持続的な経済の好循環に繋がることを期待されております。

こうした中で、当局としましても、今後、観光業関連への波及効果はもとより、企業進出による北陸地域全体の活性化に期待する一方で、人手不足、能登地域ですとか金沢以西、福井への地域的な波及、ものづくりなどの観光業以外への波及、2年目以降の反動減対策、リピーターの確保策、空港施設との共存、誘客から移住・定住への取組みなどに引き続き注視してまいりたいと考えています。

では、この資料の一番最後を御覧いただきますと、「誘客は、今が大事、そして、その後も！」ということで、各新幹線、岩手県からずっと並べてありまして熊本県まであります。これまでの開業された各新幹線の開業年、真ん中が開業年ですが、これを100として、その前後で100に対してどれぐらいになっているのか。青がプラスになっているところですか。ピンクがマイナスになっているところですか。真ん中に長野県、青森県がございまして、青森県は平成22年には青になっていますが、マイナスになっているところが結構みられております。ですから、この2年目以降の反動減対策をこれから本当に真剣に考えていく必要があるのかなど。他の新幹線の開業の時点と比べた場合について、参考までに紹介させていただきました。